



# 自立活動

## Autonomous Activities

▶ 学級 小学校 特別支援学級

▶ 題材 「自分の考えや気持ちを伝えよう」

自立活動については福島県特別支援教育センター「小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育システム推進のためのコーディネートハンドブック」(2020年版) p.32-33をご参照ください。

POINT

01

### 児童の実態と教師の仕掛け

対象児童 A は、自分の考えや気持ちを相手に伝えたいという思いをもっているが、人前で話すことは苦手としている。特別支援学級での授業においては、担任の教師に自分の考えや気持ちを小声で伝え、それを担任の教師が他の児童に伝えてきた。しかし、交流先の通常学級では、この方法だけでは自分の考えや気持ちを相手に伝えることが難しく、戸惑う様子が見られた。そこで教師は、本人と相談し、自分の考えや気持ちを相手に伝える方法を増やしていくことを自立活動の指導目標に設定した。

教師は、児童 A が絵を描くことを好むことから、自立活動の指導目標の達成につなげることができるのではないかと考えた。

POINT

02

### 学習の実際

◎ 自分の課題に向き合い、自分の考えや気持ちを相手に伝える方法を考える。

教師「Aさんは、自分の考えや気持ちを伝えられなくて困ったことがありますか。」

児童 A (「うん。」とうなずく。)

教師「そんなとき、どうすれば伝えやすくなるでしょうか。」

児童 A (「ううん…。」と考え込む。)

教師「例えば、Aさんは絵を描くことが得意だから、  
絵で伝えることができるのではないかな。」

児童 A (うれしそうにうなずいて、黙々と絵を描き始める。)

教師「この絵は、『困っている』ということなのかな。」

児童 A (うなずく。)

教師「この絵だけだと困っているのは分かるけど、どうして欲しいのかは伝わらないかもしれないね。」

児童 A (少し考えてから、**時計の絵と、『じかみをください』という言葉を書き入れ、得意げに教師に見せる。)**

教師「なるほど。言葉を書き入れると、相手に伝わりやすくなりますね。」

児童 B 「Aさん、私にも見せて。何を作ったの。」

児童 A (児童 B に作成したカードを見せる。)

児童 B 「**Aさんは、もっと時間が欲しいときがあるんだね。**」

児童 A (Bさんに自分の気持ちが伝わり、笑顔を見せる。)

教師「カードの表す意味が、Bさんにも伝わりましたね。

自分のしてほしいことを伝えるときに、得意な絵が役に立ちそうですね。

実際に困った場面でも使えそうですね。」

【子どもの意欲的な取組を支える  
教師のかかわり】

子どもの長所を価値付けたり、実態に応じて助言したりすることで、子どもが自信をもつことができるようにし、子どもが自分なりの解決方法を見出すことにつなげている。



児童 A が作成したカードのイメージ

POINT

03

### 自ら環境を整えようとする児童の姿

授業後半では、児童 A は、自分の課題に対する解決方法として、自分が困る場面を想起し「休みたいです」「助けてください」「ヒントをください」「タブレットを使いたいです」などの複数枚のカードを作成し担任や友達とやりとりをしてみた。その後、担任が交流先の学級担任と情報共有を図り、学級担任は児童 A がカードを使おうとする様子を見逃さないように配慮をした。そのことにより児童 A は交流先の通常学級の授業中にそれらのカードを使い、自分の考えや気持ちを伝えることで学びやすい環境を自ら整えることができるようになってきている。

児童 A は、自立活動を通して自分の課題に対する解決方法を考え、自分の考えや気持ちが他者に伝わる経験をしたことにより、自信をもち、自分の考えや気持ちを他者に伝えたいという思いを高めることができた。